

京王電鉄杯報告

報告者 原田拓朗（鹿児島県）

4月7日（土）15：20～

CC：原田 U1：西（徳島） U2：箱崎（石川）

対戦カード 専修大 対 慶應義塾

《PGCについて》

10：00～慶應義塾の試合を観戦 プレイの特徴などを共通理解

10：40～11：20 PGC ガイドラインについて映像を見ながら確認した

11：40～専修大の試合を観戦 最後まで観戦

14：00～15：00 PGC メカニクスと共通理解事項の確認を行った。

- ①プライマリの意識を強く持って判定する
- ②ダブルコールは必ずアイコンタクトしてどちらがレポートするかを確認
- ③エンドラインC側のOOBは必ず見してから指す。分からなかった時は手をあげるだけ。
- ④3vs2はフラッシュしてアシストする。
- ⑤チームファウルの数は「ツーモア」「ネクスト」の合図と声で共通理解。
個人ファウルの数、シューターを声に出して確認。
- ⑥専修大のプレスにはCが残って対応する。
などを確認してゲームに臨んだ。
- ⑦時間とラストショットの役割分担の確認（EOP・EOG）

《ゲームについて》

大きくは判定の考え方やメカが食い違いこともなく、スムーズに進行できた。

個人的にはファウルコールが少なかった。

プレゼンテーションは、とにかく大きな声を出してゲームをリードするよう心がけた。

声を掛けながら悪い手の使いと寄せをさせないようにした。

オフィシャルズ・テーブルにオルタネイティング・ポゼッションアローが無く、コートサイドの電光掲示板のチームファウル表示のみでゲームを運営しなければならず、事前に打ち合わせをしたものの、コーリングオフィシャルが「ボーナス」を忘れてレポートすることがあった。

ベンチとのコミュニケーションは、フリースローのCのポジションでベンチの言葉には耳を傾けるようにして対応した。それ以上の過剰なアピールなどは起こらなかった。

EOPの役割分担はラスト1プレイの確認やクロックのプライマリの確認の上3人で対応することができた。

《ゲーム後》

ゲーム後のMTGは審査会の為、行われなかった。

3人でゲームについて振り返りを行った。

- ・チームファウルの個数のコミュニケーションについて
- ・コールしたプレイのプライマリが正しかったかどうかについて
- ・ローテーションのタイミングについて
- ・ファウルの数のバランスについて
- ・クロックの掌握について

《全体を通じての感想》

2010年のフレッシュマン以来の京王電鉄杯の参加でした。これまで積み上げてきた経験とJBAの変革に伴う新しい審判技術の理解に加えて自分らしく今できる最高のパフォーマンスを表現することを目標に審査会に臨みました。

私はこれまで昨シーズン、今シーズンとB3のゲームを担当し、3POの経験もあり毎週更新されるJRSでメカなどについての映像を確認しているものの、自分がコート上でどこでどのようにすれば良いのかという「確固たる答え」がありませんでした。ブロック推薦を頂き、京王電鉄杯までにはその答えを出せるようにしようと努めました。具体的には、JBAの3POツールを徹底して読み込み、実践と振り返りの繰り返しや福岡ブロック長、宇地原審判長をはじめとする「確固たる答え」を持っている方々に見ていただいて修正をして審査の準備をしました。

現時点での答えを持って臨むことはできましたが、振り返ればもっとこうすれば、吹いておけば、我慢しておけばと思うことばかりです。

まだ審査会は1次が終わったばかりであり、目指す先はまだですが、ここに至るまでも多くの方々のご支援のおかげで審査会に臨むことができたと感じました。

一緒に担当したクルーや会場とともに過ごした審判員の皆さんはとてもよく新しいことも研究し、身についていると感じました。京王杯を通じて学んだことを、九州や鹿児島に還元できるよう引き続き努力してまいります。

最後に派遣に際し、ご尽力くださいました福岡ブロック長をはじめ、九州バスケットボール協会、鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げて、拙い内容ではございますが報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。